

鳴門教育大学附属中学校
学校関係者評価報告書

(平成29年度)

平成30年3月

学校関係者評価委員会

目 次

I 学校関係者評価委員会が実施した学校評価について	
1. はじめに -----	2
2. 評価の目的 -----	2
3. 評価のスケジュール -----	2
4. 学校関係者評価委員会委員 -----	3
5. 本評価報告書の内容 -----	3
6. 本評価報告書の公表 -----	3
II 学校関係者評価結果	
1. 総合評価 -----	4
2. 評価項目ごとの評価	
(1) 評価項目1「主体的・対話的で深い学びの実現」 -----	4
(2) 評価項目2「いじめの防止」 -----	5
(3) 評価項目3「キャリア教育の推進」 -----	7
3. 保護者対象学校評価アンケート分析 -----	8
4. 全国学力・学習状況調査分析 -----	9
参考：学校の現況及び目標 -----	10

I 学校関係者評価委員会が実施した学校評価について

1. はじめに

本報告書は、保護者、学校評議員、大学教員、地元の企業経営者で構成された学校関係者評価委員会が、鳴門教育大学附属中学校の教育活動の観察や校長等との意見交換等を通じて、附属中学校の自己評価の結果について学校関係者評価を実施し、その結果を報告書として取りまとめたものである。

2. 評価の目的

学校評価の目的は、

- ① 学校が、自らの教育活動その他の学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより、学校として組織的・継続的な改善を図ること
- ② 学校が、自己評価及び保護者など学校関係者等による評価の実施とその結果の公表・説明により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者、地域住民等から理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めること
- ③ 学校の設置者等が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講じることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ること

である。

このような学校評価において学校関係者評価は、自己評価の結果を評価することを通じて、

- ① 自己評価の客観性・透明性を高めること
- ② 学校・家庭・地域が共通理解を持ち、その連携協力により学校運営の改善に当たること

を期待して実施されるものである。

※ 参考 文部科学省（2016）「学校評価ガイドライン〔平成28年改訂〕」

3. 評価のスケジュール

時 期	内 容
29年 7月	第1回学校関係者評価委員会（委員長の選出、評価項目等の確認）
29年 9月	文化祭参観、校長との意見交換
29年 11月	オープンスクール参観、校長との意見交換
30年 3月	第2回学校関係者評価委員会（評価報告書のまとめ）

4. 学校関係者評価委員会委員

○ は委員長（平成 30 年 3 月現在）

山形 拓生	附属中学校保護者会会長
手束 直胤	社会福祉法人有誠福祉医療法人有誠会理事長 附属中学校卒業生 元附属中学校学校評議員
○ 阿形 恒秀	鳴門教育大学教授 元大阪府立布施高等学校校長 元大阪府教育委員会事務局教育振興室高校改革課首席指導主事
稲木 紀彦	附属中学校学校評議員 (株)トクジム代表取締役社長 元附属幼稚園学校評議員 元附属中学校保護者会会長

5. 本評価報告書の内容

本評価報告書の「Ⅱ 学校関係者評価結果」では、

評価項目 1 「主体的・対話的で深い学びの実現」

評価項目 2 「いじめの防止」

評価項目 3 「キャリア教育の推進」

における全ての観点の内容を総合的に判断し、学校の教育活動・学校運営全体に関する総合評価を

A 十分達成されている

B 達成されている

C 取り組まれているが、成果が十分でない

D 取組が不十分である

の 4 段階評価で記述している。

さらに、3つの評価項目についても、各項目で同様の 4 段階評価で記述し、主な「優れた点」「改善を要する点」を併せて記述し、総合評価の根拠・理由を示している。また、「保護者対象学校評価アンケート」と「全国学力・学習状況調査」の結果に関する分析についても記述している。

なお、「参考」として、自己評価書に掲載されている「学校の現況及び目標」を転載した。

6. 本評価報告書の公表

本報告者は、本評価報告書を鳴門教育大学に提供するとともに、設置者に提出する。また、ウェブページ（<http://www.naruto-u.ac.jp/schools/06/004.html>）への掲載により、広く社会に公表する。

Ⅱ 学校関係者評価結果

1. 総合評価

鳴門教育大学附属中学校学校関係者評価委員会は、
評価項目1「主体的・対話的で深い学びの実現」
評価項目2「いじめの防止」
評価項目3「キャリア教育の推進」
の内容を総合的に判断し、4段階評価中の「**A 十分達成されている**」と評価する。

この評価に至った根拠・理由については、以下の「2. 評価項目ごとの評価」において述べる。さらに、評価項目ごとに、主な「優れた点」「改善を要する点」をまとめ、達成度を総括する。

2. 評価項目ごとの評価

(1) 評価項目1「主体的・対話的で深い学びの実現」

評価項目1について、以下に示したように、各教科において「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、「教科の特質に応じた見方・考え方」を鍵概念として教育実践を展開し、「これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができる」という新学習指導要領の理念を的確に具現化しており、大いに評価できる。したがって、学校の自己評価では4段階評価中の「**B 達成されている**」と判断されているが、学校関係者評価としては、4段階評価中の「**A 十分達成されている**」と評価する。

【学校の取組】

平成29年3月に告示された中学校学習指導要領の「解説 総則編」には、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善）を推進することが求められると示されている。

これを踏まえ、附属中学校では、深い学びを実現するためには各教科の特質に応じた見方・考え方が欠かせないと捉え、「見方・考え方を働かせた深い学びの実現」を図るために、学校全体で共通した授業設計モデルを設定し、授業改善に取り組んだ。

【優れた点】

- ① 新学習指導要領で示された授業改善の視点を取り入れた学習指導を各教科で実施し、学校全体で研究に取り組んでいる。
 - * 授業の流れを「学習課題を把握する場面」「学習課題に取り組む場面」「共有する場面」「発展させる場面」の4場面で構成した「深い学びを実現するための授業設計モデル」を設定し、授業改善を推進している。
 - * 各単元や題材の学習に際して、「何ができるようになるか」を明確にした指導目標や計画を立案し、生徒が身に付いた学力を的確に評価している。
 - * このような授業改善の実践について、毎年6月に開催している研究発表会やその後の各種研

研究会等で研究成果の発信に努めている。

- ② 評価項目1「主体的・対話的で深い学びの実現」に関する、保護者対象アンケートの質問事項の回答では、学校の取組が支持されている。

*保護者対象アンケート質問3「先生は生徒が深く学べるように指導している」に対する肯定的回答（“よく当てはまる”と“当てはまる”の合計、以下同様）は、第1回アンケートでは95.6%、第2回アンケートでは91.1%となっている。

*保護者対象アンケート質問5「先生は一人一人の生徒に力が付くように指導している」に対する肯定的回答は、第1回アンケートでは80.9%、第2回アンケートでは79.7%となっている。

- ③ 教職員の自己申告による目標管理における自己評価において、教職員は、評価項目1「主体的・対話的で深い学びの実現」について、設定目標を上回っている、もしくは達成していると評価している。

*「学習指導（主体的・対話的で深い学びの実現）」の自己評価は、教職員全員がAまたはB（A5名、B17名）となっている。

※ 教職員対象自己申告による目標管理は下記3段階で自己評価を行っている。

A 設定目標を上回っている（方策を十分に実践している）

B 設定目標をほぼ達成している（方策をほぼ実践している）

C 設定目標を下回っている（方策をあまり実践していない）

- ④ 全国学力・学習状況調査の知識・活用問題における附属中学校の平均正答率は、全国（国公立）中学校の平均正答率を大きく上回っている。

【改善を要する点】

- ① 「見方・考え方を働かせた深い学びの実現」の実現によって、生徒の学力がどのように深まったかを、より分かりやすく示す工夫を図られたい。
- ② 主体的に学習に取り組む態度を育成するため、各教科で単元・題材を貫く問いや学習課題設定の在り方を工夫し、学びに向かう力を高められたい。
- ③ 「主体的・対話的」の観点を重視しつつ、教師の主体性・指導性・卓越性にも留意しながら、学力向上に取り組まれたい。

（2）評価項目2「いじめの防止」

評価項目2について、以下に示したように、いじめに関するアンケート調査等を活用して、学校をあげていじめの防止・早期発見・対処に組織的に取り組んでおり、大いに評価できる。したがって、学校の自己評価では4段階評価中の「B 達成されている」と判断されているが、学校関係者評価としては、4段階評価中の「A 十分達成されている」と評価する。

【学校の取組】

附属中学校では、平成25年6月に公布された「いじめ防止対策推進法」を踏まえ、平成26年3月に、「附属中学校いじめ防止基本方針」を定め（国の基本方針の改定を踏まえ平成29年に一部修正）、いじめの防止・早期発見・対処に組織的に取り組んでいる。また、年3回実施しているいじめに関するアンケート調査等の結果を分析し、学校のいじめ防止対策の検証を行っている。

【優れた点】

- ① 日常的に人間関係が良好に保てるように、生徒同士が繋がる活動の工夫に取り組んでいる。
 - *各教科の授業において、話し合い活動、ペア学習やグループ活動、グループエンカウンターやレクリエーションを取り入れ、よりよい人間関係を築いていく力を育てている。
 - *3年生で学年球技大会を実施し、体育委員が審判・運営・応援等の企画と役割分担を立案し生徒が協力して取り組むことで、学級の結束力を高めている。
- ② いじめ防止担当者を配置し、スクールカウンセラー等と連携した相談体制の充実や小学校との連携強化に取り組んでいる。
 - *日々の日記を通じてのコミュニケーション、定期的な二者面談、無記名で行う学校生活アンケート等を通じて、生徒が悩みを打ち明ける機会を設けている。
 - *週1回来校するスクールカウンセラーと気安く相談できるように、月1回の通信を教室に掲示し、カウンセラーあての相談箱を設置している。
 - *附属学校いじめ防止対策ワーキンググループに参画し、小学校等との連携を進めている。
- ③ 評価項目2「いじめの防止」に関する、保護者対象アンケートの質問事項の回答では、学校の取組が支持されている。
 - *保護者対象アンケート質問16「学校は生徒が先生に相談できる雰囲気がある」に対する肯定的回答は、第1回アンケートでは78.4%、第2回アンケートでは78.7%となっている。
 - *保護者対象アンケート質問18「自分の子どもは学校で居心地のよさを感じている」に対する肯定的回答は、第1回アンケートでは89.1%、第2回アンケートでは89.9%となっている。
- ④ 教職員の自己申告による目標管理における自己評価において、教職員は、評価項目2「いじめの防止」について、設定目標を上回っている、もしくは達成していると評価している。
 - *「生徒指導（いじめの防止）」の自己評価は、教職員全員がAまたはB（A3名、B19名）となっている。

【改善を要する点】

- ① 生徒にとって居心地のよい環境や雰囲気をつくるとともに、よりよい人間関係を築く力が身に付く指導をさらに充実させ、いじめや不登校の未然防止に取り組まれない。
- ② 道徳教育や人権教育、情報モラル教育に力を注ぎ、人権意識を醸成し多様な価値感を認めるとともに、他者と比較しなくとも得られる自己肯定感を高める指導に取り組まれない。
- ③ 全国学力・学習状況調査の生徒質問紙の質問番号27「学校に行くのは楽しいと思いますか」と質問番号54「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」について、「そう思う」の回答率が全国国公立中学校の平均を下回っていることを踏まえ、その原因を分析し、居心地のよい雰囲気づくり、よりよい人間関係のために必要な取組を検討されたい。

(3) 評価項目3「キャリア教育の推進」

評価項目3について、以下に示したように、「学校や家庭や地域社会の中で、自分の役割を果たしながら将来に夢をもって生きる生徒の育成」に取り組んでおり、大いに評価できる。したがって、学校の自己評価では4段階評価中の「B 達成されている」と判断されているが、学校関係者評価としては、4段階評価中の「A 十分達成されている」と評価する。

【学校の取組】

平成23年1月の中央教育審議会の答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」において、キャリア教育は「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」と定義されている。

附属中学校では、これを踏まえて、高校進学に焦点を合わせた従来型の進路指導からの転換を図り、キャリア教育目標として「学校や家庭や地域社会の中で、自分の役割を果たしながら将来に夢をもって生きる生徒の育成」を掲げ、現実の社会を学ぶ活動等を取り入れながら、キャリア教育の推進に取り組んでいる。

【優れた点】

- ① キャリア教育で育成すべき能力・態度「かかわる力、みつめる力、すすむ力、えがく力」を意識した教育実践に取り組んでいる。
 - * 3日間の職場体験学習の充実、日々の係活動の徹底等を通じて、キャリア教育の推進に取り組んでいる。
- ② 挨拶の実践を掲げ、挨拶の意味を生徒に問いかけ、生徒会へも働きかけながら、学校生活全般において挨拶への意識の向上に取り組んでいる。
 - * 正門での「朝のあいさつ運動」について、生徒会役員・有志だけではなく学級単位での参加の日を設け、全校的に取り組んでいる。
 - * 授業開始と終了の挨拶を気持ちよく行うことを励行している。
 - * 部活動では人間関係を形成する力が養われる機会が多いので、その基盤となる挨拶を各部で徹底するように取り組んでいる。
- ③ 大学教員や卒業生を講師として招聘し、幅広い分野の講話を依頼することで、生徒の将来や仕事に対する意識を高めている。
 - * 平成14年度から取り組んでいる外部講師の講話を聴く機会「LFT (Live Fuchu Time)」について、平成29年度は、附属中学校の卒業生や附属中学校に関係のある様々な職業に従事している方を講師に招聘し、身近な方の話を通じて生徒が自分の将来や生き方を考える機会を提供している。
- ④ 評価項目3「キャリア教育の推進」に関係する、保護者対象アンケートの質問事項の回答では、学校の取組が支持されている。
 - * 保護者対象アンケート質問22「附属中学校の生徒はあいさつができています」に対する肯定的回答は、第1回アンケートでは83.4%、第2回アンケートでは78.6%となっている。
 - * 保護者対象アンケート質問27「自分の子どもはあいさつができています」に対する肯定的回答は、第1回アンケートでは89.9%、第2回アンケートでは90.7%となっている。
- ⑤ 教職員の自己申告による目標管理における自己評価において、教職員は、評価項目3「キャ

リア教育の推進」について、設定目標を上回っている、もしくは達成していると評価している。

*「学級経営・学校経営（キャリア教育の推進）」の自己評価は、教職員全員がAまたはB（A 2名、B 20名）となっている。

⑥ 全国学力・学習状況調査の生徒質問の集計結果から、自分自身や自分の将来を肯定的にとらえている生徒が多いことが伺える。

*質問番号6「自分には、よいところがあると思いますか」について、「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」を合計した回答率が全国国公立中学校の平均を上回っている。

*質問番号10「将来の夢や目標を持っていますか」について、「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」を合計した回答率が全国国公立中学校の平均を上回っている。

【改善を要する点】

- ① 気持ちのよい挨拶、時間を守ること、物を大切にすること等がまだ十分にできていない生徒がいるとのことなので、引き続き生徒に響く指導を徹底されたい。
- ② 将来を見通し自己実現を図るためのプランをえがくことができるように、「LFT（Live Fuchu Time）」等の取組を継続し、様々な機会を捉えて未来へ向かう意識を持たせる指導に努められたい。

3. 保護者対象学校評価アンケート分析

附属中学校の平成 29 年度の重点目標「主体的・対話的で深い学びの実現」「いじめの防止」「キャリア教育の推進」に関して、平成 29 年 12 月 8 日～20 日に実施された、平成 29 年度第 2 回保護者対象学校評価アンケート（有効回答者数 367 人）の結果を総括する。

アンケートは、各項目について、「よく当てはまる」「当てはまる」「当てはまらない」「全く当てはまらない」から選び答える形式である。以下の数値の「肯定的回答」とは、「よく当てはまる」「当てはまる」の計を示している。

調査にあたって、学校は、保護者に子どもと話し合った上での回答を依頼しているが、27 の調査項目の肯定的回答の平均が 87.8%となっており、生徒・保護者とも、本年度の重点目標を概ね達成できていると評価していることがうかがえる。

① 主体的・対話的で深い学びの実現（質問項目 1～9）

	質 問	肯定的回答
1	先生は、楽しい授業となるよう工夫している	96.4%
2	先生は、生徒が考えたい課題を設定している	91.7%
3	先生は、生徒が深く学べるように指導している	91.1%
4	先生は、ワークシートや板書を工夫している	93.4%
5	先生は、一人一人の生徒に力が付くように指導している	79.7%
6	先生は、一人一人の生徒の学習状況を理解しようとしている	83.1%
7	附属中学校の生徒は、自ら学ぼうという意欲をもっている	91.4%
8	自分の子どもは、様々な課題に対してしっかりと考えようとしている	84.0%
9	自分の子どもは、新聞記事やニュース報道に興味をもっている	68.2%

② いじめの防止（質問項目 10～19）

	質 問	肯定的回答
10	先生は、学活や道徳の授業を工夫している	92.0%
11	先生は、話し合い活動やグループ活動を充実させている	97.5%
12	附属中学校の生徒は、互いに相手の思いや立場を踏まえて会話している	80.8%
13	附属中学校の生徒は、楽しい学校生活を送っている	93.0%
14	学校は、落ち着いて学習に取り組める雰囲気がある	90.5%
15	学校は、保護者が先生に相談できる雰囲気がある	82.1%
16	学校は、生徒が先生に相談できる雰囲気がある	78.7%
17	学校は、教師と生徒、生徒相互の人間関係が円滑である	87.7%
18	自分の子どもは、学校で居心地のよさを感じている	89.9%
19	自分の子どもは、学校で本音を言える友達がいる	88.3%

③ キャリア教育の推進（質問項目 20～27）

	質 問	肯定的回答
20	先生は、生徒の長所を認め指導を行っている	92.5%
21	先生は、委員会・係活動や清掃活動を熱心に指導している	93.0%
22	附属中学校の生徒は、あいさつができています	78.6%
23	附属中学校の生徒は、交通ルールやきまりを守っている	79.4%
24	自分の子どもは、学校生活において自分の役割を果たしている	95.0%
25	自分の子どもは、時間を守っている	90.4%
26	自分の子どもは、物を大切に扱い、整理・整頓ができています	73.3%
27	自分の子どもは、あいさつができています	90.7%

4. 全国学力・学習状況調査分析

平成 29 年度の全国学力・学習状況調査の結果では、国語 A（主として知識）、国語 B（主として活用）、数学 A（主として知識）、数学 B（主として活用）いずれにおいても、全国（国公立）の平均正答率を大きく上回っており、学力育成の成果があがっていることがわかる。また、相対的に平均正答率が低かった問題に関連する能力を伸ばすための授業を考案し実施するなど、学校は全国学力・学習状況調査の結果を有効に活用して、授業改善・学力伸長に取り組んでいる。

参考 学校の現況及び目標

1 現況

- (1) 学校名 鳴門教育大学附属中学校
- (2) 所在地 徳島市中吉野町1丁目31番地
- (3) 学級等の構成
1学年 4学級 2学年 4学級
3学年 4学級 計12学級
- (4) 生徒数及び教員数(平成29年5月1日)
生徒数 462人 教員数 24人(正規教員)

2 目標

(1) 目的・使命

本校の目的は、附属中学校校則第1条において「小学校における教育の基礎の上に、心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育を施すとともに、鳴門教育大学(以下「本学」という。)における生徒の教育に関する研究に協力し、かつ、本学の計画に従い学生の教育実習等の実施に当たることを目的とする」と定めており、本校は義務教育を行う任務とともに、教員養成大学の附属中学校として、次のような使命をもった学校である。

- ①大学と一体となって、教育の理論及び実践に関する科学的研究を行う研究学校としての使命
- ②鳴門教育大学の学部学生の実地教育(教育実習)及び大学院生との教育実践研究等を行う使命
- ③教育界の課題の解明に努め、関係機関と連携し、本県中学校教育推進に寄与する使命

(2) 教育目標

本校は、校則第1条に示されている中学校教育の目的の達成のため、次の教育目標を掲げ、めざす生徒像・教師像・学校像を明確に示している。

知・徳・体の調和的人格の完成をめざし、自主・自立の精神、創造的能力、豊かな人間性をそなえ、国際社会の発展に寄与することのできる心身ともにすこやかな中学生を育成する。

めざす生徒像

- 目標を持ち、自主的、創造的に学ぶ生徒
- 強靱な意志と体を持ち、たくましく生き抜く生徒
- 優しく思いやりの心を持ち、人につくす生徒

めざす教師像

- 生徒を愛し、生徒とともに伸びる教師
- 強い使命感、鋭い教育観をもった教師
- 優れた指導力をもった教師

めざす学校像

- 創造的な知性を磨く学園学校
- 情熱的な意志を鍛える鍛錬学校
- 強健な身体を練る体育学校
- 敬和奉仕の精神に生きる人間学校

(3) 平成29年度重点目標(実践事項)

- ① 主体的・対話的で深い学びの実現
ア 見方・考え方を働かせる学習指導の充実
イ 「何ができるようになるか」を意識した指導と評価
- ② いじめの防止
ア 居心地の良い雰囲気づくり
イ 生徒同士が繋がる活動の工夫
- ③ キャリア教育の推進
ア 気持ちのよい挨拶の実践
イ 家庭や地域との連携を深める取組

(4) 平成29年度評価項目(評価指標)

- ① 主体的・対話的で深い学びの実現
ア 保護者対象アンケート(7月と12月に実施)
「先生は生徒が深く学べるように指導している」
「先生は一人一人の生徒に力が付くように指導している」
イ 教職員対象自己申告による目標管理(2月)
「学習指導」
- ② いじめの防止
ア 保護者対象アンケート(7月と12月に実施)
「学校は生徒が先生に相談できる雰囲気がある」
「自分の子どもは学校で居心地のよさを感じている」
イ 教職員対象自己申告による目標管理(2月)
「児童生徒指導等」
- ③ キャリア教育の推進
ア 保護者対象アンケート(7月と12月に実施)
「附属中学校の生徒はあいさつができています」
「自分の子どもはあいさつができています」
イ 教職員対象自己申告による目標管理(2月)
「学級経営・学校運営・校務の処理・その他」